



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

## 2. 単為結果性を持つナス「PC千両」の収量及び品質

### [要約]

単為結果性ナス「PC千両」はトマトトーンの開花期散布を行わなくても果実が良好に肥大する。同剤を散布した「千両」と比べ、形状不良果の発生率は同程度、総収穫果収量は約1割少ないが、主に1～3月に発生しやすい着色不良果は少ない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

---

### [背景・ねらい]

施設ナス栽培では着果のためのトマトトーンの開花期散布（以下、ホルモン処理）が総労働時間の約1割に上っており、生産者にとって大きな負担となっている。近年、ホルモン処理をしなくても正常に着果・肥大する単為結果性品種が開発されており、生産現場への導入の検討に資するため、その収量及び品質を評価する。

### [成果の内容・特徴]

1. 「PC千両」はホルモン処理を行わなくても良好に肥大し、収穫果実数に占める形状不良果発生率は、処理を行った「千両」と同程度に少なかった（表1）。
2. 日射量が少ない1～3月の着色不良果の発生は、「千両」に比べて少なかった（表1）。
3. 総収穫果収量は「千両」に比べて約1割少なかった（表2）。
4. 果実の先端部は「千両」に比べてやや丸い（図1）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 農研内パイプハウスで、台木「台太郎」に接ぎ木した苗を、畝幅 1.7m、株間 70cmで定植し、主枝はV字4本仕立て、側枝は1芽切り戻し整枝とした促成栽培で得られた結果である。
2. ホルモン処理を省略することにより、総労働時間が約12%縮減できると考えられる（平成27年度 農業経営指導指標を基に試算）。
3. 導入を検討するに当たっては、各産地の荷姿での日持ち性を確認する必要がある。
4. 漬物業者が「千両」と同様の方法で浅漬けしたところ、果実内の水分が早く漬け汁に滲出し、内部に空洞が発生しやすかった。
5. 量販店関係者から、一般的な調理には問題なく使用できるという意見もあった。
6. 2021年5月時点で、「TNA-112（PC千両）」は産地を限定してタキイ種苗から販売されている。



[具体的データ]

表1 「PC千両」と「千両」の形状不良果、日焼け果、つやなし果及び着色不良果発生率（2019年定植）

品 種	形状不良果 <sup>z</sup> 発生率 (%)		日焼け果 <sup>y</sup> 発生率 (%)		つやなし果 <sup>x</sup> 発生率 (%)		着色不良果 <sup>w</sup> 発生率 (%)	
	全期間	4~6月	全期間	4~6月	全期間	4~6月	全期間	1~3月
PC千両	3.9	5.6	4.9	6.6	1.4	2.9	2.0	4.6
千 両	5.9 <sup>n.s.</sup>	7.8 <sup>n.s.</sup>	12.3 <sup>n.s.</sup>	21.3 <sup>n.s.</sup>	1.1 <sup>n.s.</sup>	2.2 <sup>n.s.</sup>	8.7 <sup>*y</sup>	17.9 <sup>**</sup>

- <sup>z</sup> 総収穫果数に占める、販売不能な程度の曲がり、果頂部のふくれ、首細、がく割れ、肥大不良のある果実数の割合
- <sup>y</sup> 総収穫果数に占める、表皮に陥没または褐変のある日焼け果実数の割合
- <sup>x</sup> 総収穫果数に占める、つやなし果数の割合
- <sup>w</sup> 総収穫果数に占める、形状は良好で日焼け、つやなしも見られないが、がく青又は果皮色が薄いことにより等級落ちした果実数の割合
- <sup>v</sup> \*は5%、\*\*は1%水準で平均値に有意差があることを、n.s.はないことを示す（各品種4株3反復の調査区を設置し、アークサイン変換後のデータを用いてt検定を行った）

表2 「PC千両」と「千両」の果実収量（2019年定植）

品 種	9~12月の果実収量 (t/10a)		1~3月の果実収量 (t/10a)		4~6月の果実収量 (t/10a)		全期間の果実収量 (t/10a)	
	収穫果	商品果 <sup>z</sup>	収穫果	商品果	収穫果	商品果	収穫果	商品果
PC千両	4.0	3.6	4.8	4.7	8.4	7.2	17.2	15.5
千 両	4.5 <sup>**y</sup>	4.0 <sup>*</sup>	5.8 <sup>n.s.</sup>	5.5 <sup>n.s.</sup>	9.9 <sup>*</sup>	7.7 <sup>n.s.</sup>	20.2 <sup>*</sup>	17.2 <sup>n.s.</sup>

- <sup>z</sup> 収穫果から、くず形状不良果、褐変のある日焼け果及びつやなし果を除いたもの
- <sup>y</sup> \*は5%、\*\*は1%水準で果実収量の平均値に有意差があることを、n.s.はないことを示す（各品種4株3反復の調査区を設置して得たデータを用いて、t検定を行った）



図1 「千両」（左）と「PC千両」（右）の果実

[その他]

研究課題名：単為結果性ナスの本県施設栽培への導入可能性の検証

予算区分・研究期間：県単・令元年度

研究担当者：佐野大樹